

地域における学校から社会への若者の包括的支援の検討

横浜市立戸塚高等学校定時制課程の進路指導を軸にした学校づくりに注目して

執筆

西村 貴之

首都大学東京 都市教養学部助教

1 はじめに

①大人になることが難しい時代に生きる若者たち

90年代半ば以降若者たちは学校を卒業し、正社員となつて長期雇用のもとで安定的な職業生涯を送るといえる。「常識」(本田2009)がもはや通用しなくなつてきている。「労働力調査詳細集計」をみると、2010年1月〜3月平均では15〜24歳の非正規雇用率は、45・9%(在学中を除くと31・7%)、25〜34歳では、25・6%である。20

代前半の就業者のうち、およそ3人に1人が非正規雇用者となつて職業的世界に入つていく。今日の若者の多くは、親以上の世代が経験したことのないかたちで、まさに手探りで、大人になろうとしている。

②夜間定時制高校とはどのような学校なのか

夜間定時制高校(以下、定時制)(注1)には、働きながら高卒の資格を取得した者に加えて、不登校経験者、全日制不合格者、非行履歴を

くり返しながらまっとうに生きようとする者、成人になり学び直しをする機会がもてた者、外国籍の者、障害を持つ者、不況によつて学費の高い全日制への進学や在学を断念せざるをえなかつた者など多様な生徒が通つている。かつて勤労青少年に教育の機会を保障してきた定時制は、今日にいたるまで統廃合によつて量的縮小を余儀なくされながらも、(定時制でしか学べない・学び直せない)者にとつて重要な教育的機能を果たしている。

しかしながら、2009年度の定時制高校中退率は11・5%と、全日制普通科の1・2%と比較するとおよそ10倍にもなる現状がある。(注2)また、日本高等学校教職員組合の調査によれば、就職内定率が2010年度10月末時点で、29・3%と、全体の平均61・5%の半分にも満たない。

まさに定時制の生徒には学校機関からのドロップアウトのリスクがあり、ひいては社会的に排除されるリスクを抱える者が少なくないのである。かような生徒たちへの厚い支援が必要でありながら、わが国においては、定時制に通う生徒の社会的な不利

な実態把握が十全になされてきているとは言い難い。

2 横浜市立戸塚高等学校定時制課程の実態調査

①調査の背景

後述するように、横浜市立戸塚高等学校定時制課程(以下、戸塚定時制)は、「ガイダンス部」という独自の校務分掌を立ち上げ、生徒の卒業後の確かな進路保障のための指導に力を入れている。また本調査研究代表者岩本氏が勤務するK2インターナショナルは、22年間の実績をもつ不登校や引きこもりの若者支援機関である。この両機関の間で、戸塚定時制の卒業生の進路支援の連携が2008年4月に始まったことが本調査実施の契機になつている。

生徒たちが、進学先、就職先を見つけて卒業していく、ひいては彼らが社会的に自立の道を歩んでいくために、学校は何ができるのか。戸塚定時制の教員集団は、若者支援機関がもつ就労支援のノウハウやソーシャルワークの知識を資源として従来の進路指導の転換を試みている。本調査研究は社会的排除のリスクを抱える在学者の実態把握を通じて、戸塚定時制が模

索している学校づくり(若者支援機関との連携を含む有効な進路指導実践)を支援するいわばアクションリサーチ的な調査研究となつている。(注3)

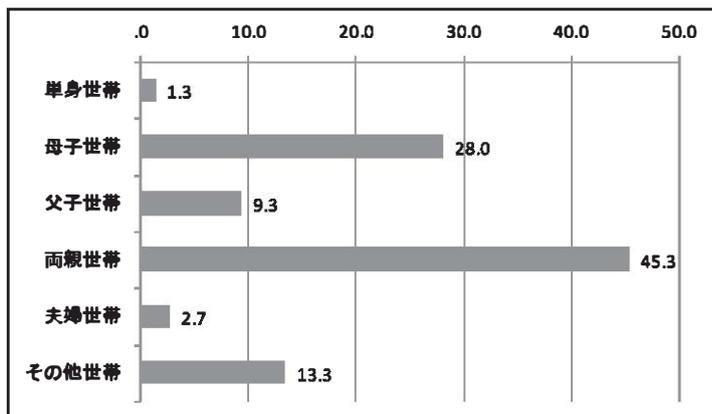
②調査の方法

本研究では定量的および定性的な調査を実施した。2009年度4学年に在籍する生徒を対象に、2009年5月と11月の2時点において、進路動向の状況、学校生活および家庭生活に関する質問紙調査(注5)を実施した(回答数75名:男子32名、女子39名、欠損値4名。回答率95%)。その中の28名(男性11名、女性17名)にインタビュー調査を実施した。並行して、教員(校長代理と副校長、ガイダンス部担当経験者等計10名)にも聞き取りを行った。また補足的に、授業場面や「演劇祭」等の学校行事場面での生徒の様子を参与観察した。

③調査の結果

「平成21年度政策の創造と協働のための横浜会議協働研究調査報告書」をもとに、本稿では、まず生徒の実態を四つの視点から整理する。その上で、その実態に対してどの

図1 戸塚定時制4年生の家族構成（共同研究者樋口作成）



構成をみると、両親と同居している者は、過半数を割った45.3%に過ぎず、一人親世帯特に母子世帯の割合が高い(図1)。インタビュール協力者28名中、母子・父子のいずれか一人親と同居する生徒11名は、低所得世帯出身であり、そのうち3名が生活保護を受給していた。両親同居の生徒は16名いたが、そのうち7名が低所得世帯であった。そして、かような層の中には、親の不安定な

入学者でもドロップアウトせずに進級できた層は、高校生活に何らかの意義を見出ししていることがわかれた。その理由はさまざまあるが、そのいくつかについて考察してみよう。

ア、良好な教師・生徒間関係
「先生はあなたの言いたいことを本気で聞いてくれる」という設問に対して「そう感じる」と回答した者は、1年生では52.7%であるのに対して、4年生では78.1%にもなる。インタビュール調査でも、多くの生徒が異口同音に教員に対して好意的な印象を抱いていると語っていた。

「ほんと親身になって(自分の話を)聞いてくれる感じで。なんか今までの中学のときと違って、先生とか信用ならなかったんですけど。この先生たちは、ほんと、いい人だなーって思いますね」。こうした関係は4年間かけて構築されている。

イ、高校に入って友だちができた
戸塚定時制の生徒には、不登校経験者が少なくない。「他者と関わりを持ちたくない生徒」がいると教員は語る。しかし、アンケート結果によれば、実に94.6%の者が、

「いろんな事情の抱えた人が集まるじゃないですか、普通の学校よりも。だから、踏み込んでいけないうちもあつたりするとかはなくなつたと思うし、自分とタイプの違う子とかも普通に話せるようになって、…人見知りがあったくしなくなつたんで」。

ウ、授業について
「授業をまじめに取り組んでいる」者は、全体で85.3%おり、「勉強がわかる」と回答した者も73%と高い割合いた。

中学3年時の成績が下位

ような教育実践を模索しているのかを描いていく。

(1) 家族背景

客観的にも生徒の自己認識においても経済的に厳しい層が、戸塚定時制に入学していることが明らかになった。入学動機に関して、「授業料が安いから」に回答した者が75名中29名いた(複数回答)。中学3年時点で、経済的に負担の少ない定時制進学を決めた者が38.7%いたということである。「現在の家族の暮らし向き」を問う設問に、「苦しい+やや苦しい」と答えた者が50.7%いた。家族

就労、低賃金、リストラや倒産の経験のなかで、経済的な面にも加えて、精神的な面においても安心して家庭生活を送れず、それが少なからず高校生活に影響を与えているケースも散見された。(注4)

「ほんと親身になって(自分の話を)聞いてくれる感じで。なんか今までの中学のときと違って、先生とか信用ならなかったんですけど。この先生たちは、ほんと、いい人だなーって思いますね」。こうした関係は4年間かけて構築されている。

「いろんな事情の抱えた人が集まるじゃないですか、普通の学校よりも。だから、踏み込んでいけないうちもあつたりするとかはなくなつたと思うし、自分とタイプの違う子とかも普通に話せるようになって、…人見知りがあったくしなくなつたんで」。

「授業をまじめに取り組んでいる」者は、全体で85.3%おり、「勉強がわかる」と回答した者も73%と高い割合いた。

中学3年時の成績が下位

4年生の高校生活の満足度は89.4%と高い(2009年5月調査時点)。戸塚高校定時制への進学を「どちらかといえば望まなかった+まったく望んでいなかった」層が21名いたが、そのうち18名が高校生活に満足していると回答している。いわゆる不本意

「授業をまじめに取り組んでいる」者は、全体で85.3%おり、「勉強がわかる」と回答した者も73%と高い割合いた。

中学3年時の成績が下位

「授業をまじめに取り組んでいる」者は、全体で85.3%おり、「勉強がわかる」と回答した者も73%と高い割合いた。

中学3年時の成績が下位

「授業をまじめに取り組んでいる」者は、全体で85.3%おり、「勉強がわかる」と回答した者も73%と高い割合いた。

中学3年時の成績が下位

駿があると答えている。「月、56万円。時給880円。給食、定期、携帯、洋服すべて(自分で払っている)。親からはお金をもらわず、親に毎月貸す」。

近年、15歳で正社員として雇ってくれる企業は激減し、定時制の生徒の多くはアルバイトでしか就労につけない。戸塚定時制の生徒も例外ではなく、正規雇用はわずか5・4%しかおらず、大半が非正規であった。1週間の平均労働時間は27・1時間、1カ月の収入は、平均92,290円と決して多くはない。

(4)進路状況

過去5年間に「就職」や「進学」ではない「その他」が半数を超えている。09年度卒業生で見ると、79名中23名(男子:17名、女子:6名)が就職。12名(男女各6名)が、進学(大学・短大は男子のみ3名他は専修学校)。「その他」が55・7%(44名)となっている。さらに「その他」の内訳を詳しく見てみると、「アルバイト」17・7%(14名、うち女子11名)、「専業主婦・家事手伝い」5・1%(4名)、「不明」24・1%(19名)であった。

共同研究者の樋口の調べ

によれば、この「就職」のうち3〜4割は、近年では、家族・友人などによる紹介やアルバイト先への正社員登用など「自己開拓」によってなされている。(注5)特に「自己開拓」の中で、アルバイト先への正社員への登用は、多い年で約6割にもなるほど大きな意味を持っている。卒業後の就職先を在学中に働ながら探す生徒の実態に即した就労および進学指導が求められよう。

○進路変更と未決定

最終学年に進級した時点の進路希望は、卒業直前の時点でどのように変化したのか。回答した65名のうち、2時点で進路希望を変更した者は49・3%いた。彼らの3月の卒業時点での進路結果は、正社員または進学を一貫して希望していた者と比べると、「その他」が実に5割にもほぼ不安定な進路選択をしていた。すなわち、近年増加傾向にある「その他」という進路を選択した者の多くが、それまでのプロセスの間で変更を余儀なくされたか、あるいは迷いがありなかなか決定できなかったことが考えられる。樋口の分析によれば、この層の生徒たちは、学校の進路指導を有益だと思った割合

が、進路希望が一貫していた層と比べて低く、かつ戸塚定時制を卒業後も相談しに来る場所と感じる割合も低い。(注6)進路を変更した層に対しては、より手厚い関わりが求められ、その際学校/教師は頼られる場/存在になるよう努めなくてはならない。

(1)から(4)の小括

以上の生徒の実態を簡略にまとめると次のとおりである。総じて、生徒たちの中には、貧困などの困難を背負う者も少なくないが、生徒の多くは4年間の高校生活に満足していた。しかしながら過半数の若者が不安定な卒業後の進路を歩む状況にあり、進路指導に課題が見られた。

(5)戸塚定時制の教育的営為

かような生徒の実態に対して、教員集団はどのような実践を展開してきたのか。結論から先に言えば、「2002年度」が1つの節目となっており、高校生活へ定着させる実践と進路指導を軸にした学校づくりの実践の模索が続いている。

A.「02年度問題」をきっかけ

にスタートした学校づくり02年度の入試は、県立高校校全日制ならびに横浜市立高校校定時制の再編計画の影響を受け、定時制を志願した若者

の受け皿が不足する状況が露見した。「15の春を泣かせるな」という世論のもと、市立夜間定時制として一校存続していた戸塚定時制では、70名の追加募集を実施し、2クラス分の学級増によって中卒で行き場を失う若者の救済を行った。その結果、学校に定着できない生徒たちの指導に忙殺され、入学式の翌日から不登校になる者が出てくるなど、最初の2年の間におよそ100人が退学し、卒業できたのは88人になった。

02年度に着任した1教諭は、こうした状況を鑑み、1、2学年のうちに「生活をまず安定させるリズムを作る。その延長線上に目標を定めて学習をして自己実現を図っていく」というガイダンス指導を教員集団に提案した。これは、同時にそれ以前に蔓延していた進路未定のまま卒業させてしまう「無責任状態」からの脱却という教員集団の意識改革も意味していた。

I.「ガイダンス部」が立ち上がる

今日の定時制の生徒たちが抱えるさまざまな困難な実情に適った進路指導をする必要性から、ガイダンス部が校務分掌として立ち上げられた。その体制が徐々に教員集

団に受け入れられ整えられていく。(表1)

各HR担任が個人面談、保護者交えての三者面談を行い、その情報をもとに個別支援の在り方をガイダンス部担当教員と一緒に考えるスタンスを基本としている。

しだいに、自覚的に個々の生徒にむきあう指導を通じて、教員集団は指導の困難にぶつかる(例えば発達障害の疑いのある生徒への対応等)。それによりK2などの学外の若者支援機関に適切な助言と支援を求め、連携をスタートさせていった。(注7)

ウ 学校づくりの土台となる教員文化

新入生たちが引き起こす校内外での困難な状況にもかかわらず、厳格な処分を前提にした生徒指導ではなく、彼らの抱える困難に寄り添う指導を行うという合意形成が02年度教員集団内でなされた。自己責任だと簡単に切り捨てるといった教員にとっては「楽な指導をあえて拒むことで、4年間の長いスパンで進路を考えさせるガイダンス指導の環境を整えられていく。また、不本意入学をしてきた生徒の戸塚定時制への帰属意識を養い、自己を表明することを通じて生徒同士また教師との関

係性を変容させる契機となる「演劇祭」は、30年もの間教員の努力によって維持されている。これほどの教育力をもつ学校行事を展開している定時制は数少ない。そして、人事や学内組織内での教員配置等への配慮、異動年限を意識したガイダンス部の次期担い手の育成等管理職の全面的なバックアップによって、戸塚定時制の学校づくりが進められてきた点は重要である。

3 まとめにかえてー 課題と横浜市への要望

戸塚定時制には、貧困、家族問題、低学力、不登校経験など多様多層の困難を抱えた若者が入学してくることが本調査研究で明らかになった。02年度の市内の定時制の再編統合の影響以降、そうした傾向は顕著になってきたという。誤解を恐れずに言うならば、受験偏差値のランク外に位置付けられてきた定時制高校は、マジヨリティである全日制高校に入学を志望してもかなわない層を引き受ける学校教育機関でありつづけている。ゆえに、高校制度として定時制の果たす役割には、全日制と同じ教育を営むもの以上の、独自の教育的営為が

表1 各年次のガイダンスの取り組み

	活動内容
一年	学年集会 (4月授業開始前:「高校生の意味」—単位制とは、欠席について、中途半端な気持ちなら他の道を探そう等) レディネステスト 選抜ガイダンス (9月:選抜教科の意味など) 進路ガイダンス (2月:プロフェッショナル「登山」) (3月:卒業生を招いて)
二年	進路ガイダンス (就職で必要とされる人とは) (レディネステスト) 進路ガイダンス (6月:ビデオ「家具職人」 マイスターにつなげるため宿泊後実施) 横浜マイスター実演会 (10月) 進路ガイダンス (1月:一期一会「天職とは」) (2月:プロフェッショナル「登山」) (3月:卒業生を招いて)
三年	進路アンケート調査 (4月)・履歴書練習 (10月)・職業適性検査 (1月) 進路別ガイダンス 進路ガイダンス (2月:プロフェッショナル「登山」) (3月:卒業生を招いて) ハローワーク主催高校生就職指導ガイダンス参加 (2月)
四年	職業適性検査、進路別ガイダンス (就職・進学)、オープンキャンパス体験入学 ハローワーク主催高校生就職指導ガイダンス参加 (7月) 面談活動 (毎週金曜日、K2インターナショナルよりカウンセラー来校)

※「戸塚高校定時制キャリア教育推進ガイダンス部 07年度」より筆者作成

要請されているといえよう。戸塚定時制に4年間通い続けている生徒の高校生活に対する満足度は高い。教員は、かような生徒たちがドロップアウトせず卒業していけるよう日々試行錯誤している様子が調査を通じてうかがわれた。

しかしながら、充実した高校生活を送る半面、生徒たちの約半数が進路未決定のまま、あるいは非正規雇用のかたちで卒業していくことは看過できない課題である。多くの生徒が不安定を生きてくることがないように、4年間かけて生徒一人ひとりに寄り添う進路指導を若者支援機関と連携を図って進めている定時制は、全国では数少ない。(注8)

「ガイダンス部」が正式に分掌として立ち上がって6年目。担当教員も認識しているが、まだまだ安定したシステムとして機能しているとは言えない。1つには、1学年約80名もの生徒をわずか教員6名(HR担任4名とガイダンス部担当教員2名)で担当するのは、一人ひとりに丁寧な寄り添うマンパワーに限界がある。2つには、特別支援を要するような生徒への対応や福祉の領域など、従来の教員の専門性を越えた対応を迫られる場面が、こと定時制ですます増えてきており、対応に苦慮するようになってきている。3つには、〈学校から雇用・社会へ〉の複雑で長期的な移行過程で活きる「学び」の問い直し。教科の枠を超えて、生徒がつけるべき学力の論議や具体的な実践をデザインするには時間を要する。しかし現状では、最大で8年間しか教員は学校にとどまることのできない制約がある。

横浜市としては、社会的排除のリスクを抱える若者に対する戸塚定時制の学校づくりの実践を積極的にバックアップされたい。具体的には、長期的なプロジェクトとして人的支援を手厚くする(異動年限のさらなる弾力的運用と学外連携をより実体化すべく予算を配分する)ことにつぎ。全国的に類のない学外連携を視野に入れた社会的支援を全面に打ち出した学校づくりを横浜市から発信すべきだろう。

参考文献
・本田由紀「教育の職業的意義」、ちくま新書、2009年

(注1) 本稿においては、定時制高校は主に夜間定時制をさす。高校再編によって新しく設置された昼夜開講の多部制定時制高校については、これまで夜間定時制高校が担ってきた教育的機能の一部を引き継ぎつつも、受け入れる生徒層、教育課程、教職員の勤務体制等異なる面が多々あるため、別の機会に論じたい。

(注2) 平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」、文部科学省

(注3) 本調査研究メンバーは以下の通り。岩本真実(研究代表)、津富宏長(須正明、西村貴之、樋口明彦、宮本みち子)。

(注4) 詳細は、前掲(注3) 宮本みち子「第1章 家庭・経済・親子」参照。

(注5) 詳細は、前掲(注3) 樋口明彦「第2章 戸塚高校定時制における就労プロセスの現状と課題」参照。

(注6) 前掲 注5

(注7) 詳細は、前掲(注3) 岩本真実「学校との連携支援について」参照。

(注8) 筆者が知るところでは、他にはすでに廃課程となった札幌市立星園高校と、この高校を含め再編されて設置された多部制定時制の市立大通高校くらいである。